

## <金山町におけるラストワンマイル実証実験状況報告>

プロジェクト名：金山町におけるラストワンマイル実証実験プロジェクト

目的

- ・条件不利地域において、無線を用いたブロードバンド環境を実験的に構築し、実際に地域住民に体験していただくこと。
- ・実験を契機として、市町村や通信事業者のブロードバンド環境整備への積極的な取組みを促進すること。

内容：15名の実験参加者と金山町役場を無線 LAN 機器で接続し、金山高校までは無線で、高校からは県のイントラネットを経由してインターネットに接続。

期間：15年3月30日から10月31日

実験参加者：役場周辺の住民並びに金山町役場

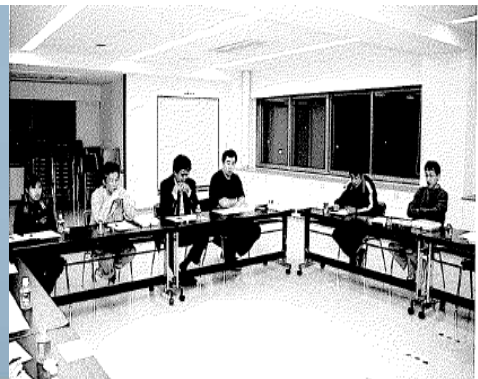
実験の様子



(金山高校ベランダの機器)



(役場屋上の機器)



(意見交換会の様子)

実験参加者の意見

- ・業務上の都合によるメール利用のほかは、インターネットによる情報検索が中心。
- ・実験によりメーカーの在庫管理システムが利用可能になり、その場で在庫確認・発注ができた(映像などが多く、ダイヤルアップでは表示に長時間を要したため、利用できなかった)
- ・各家庭における機器設置時の速度は約0.9M~1.4M(ISDNに比し、圧倒的な速度の違いを実感)(県のネットワーク(1.5M)を経由したが、非常に効率の良い結果が得られた。)
- ・大容量のファイルのダウンロードは、就寝中の作業を2~3日繰り返したが、20~30分程度で完了するようになり、「待ってられる程度」になった。
- ・検索先は育児情報や観光、地図、趣味、子供の漫画のサイト検索など、多岐に渡っている
- ・検索の絞込みができずに、目的のサイトまでたどり着くのに時間を要した。
- ・テレビは受動的であるが、インターネットは能動的に利用
- ・ADSLが開通しても、周辺部は利用不能。条件不利地の対策を行政側で支援する必要あり
- ・条件不利地域においても、高速回線への負担額はADSLと同額が望ましい。

成果

- ・高速回線により、多様なコンテンツの閲覧・情報収集が可能になり、インターネットの有効性を確認していただけた。
- ・モニターを中心にADSLの誘致活動が行われ、早期開通(16年2月16日)が図られた。
- ・条件不利地域のラストワンマイル対策には、行政の支援が必要との認識

反省点

- ・条件不利地域内における無線利用の有効性は確認できたが、インターネット網と地域を接続するバックボーン回線確保については、通信事業者の努力や地域公共ネットワークの多目的利用が考えられるが、採算性の確保や行政の財政力が課題となるため、決定的な解決手法は見出せなかった。
- ・本実験においては、高度なセキュリティへの対応を含めた検討までは至らなかった。